



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第 3 主日 B 年 (2024 年 1 月 21 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ヨナ書 3 章 1—5、10 節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 7 章 29—31 節

福音朗読：マルコによる福音書 1 章 14—20 節

## すぐに

三つの朗読から

第一朗読の冒頭<sup>ぼうとう</sup>に「主の言葉<sup>のぞ</sup>がヨナに臨んだ」とあります。神のことば<sup>せま</sup>が人に迫ってきます。目の前に神のことば<sup>せま</sup>がやってくるというイメージです。『ヨナ書』のテーマは主である神のことばと、それに対する対応です。神のことば<sup>せま</sup>が迫ってきて、ヨナは逃げたり、避けたり、拒絶したりしますが、結局、神からのことばによって神を信じるようになります。

第二朗読の「定められた時<sup>さだ</sup>」(29 節) という神のことばは、わたしたちの目を覚まします。日常の中に埋没<sup>にちじょう</sup>して生きていても、キリストとの決定的な出会いの時<sup>まいぼつ</sup>がさし迫ってやってくるのです。第一朗読では神のことば<sup>せま</sup>が迫ってきました。今度は神の時<sup>ま</sup>が迫ってきます。その時を意識<sup>いしき</sup>するか、しないかで生き方が変わってくるでしょう。神の時<sup>ま</sup>はカイロスです。それは人の時であるクロノスとは異<sup>こと</sup>なります。神は一人ひとりに「定められた時<sup>あた</sup>」をお与えになるのです。「過ぎ去るこの世の有様<sup>ありさま</sup>」(31 節参照)の中に埋没しているわたしたちには、その時<sup>ま</sup>が分からないでしょう。

福音朗読にある「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マコ 1 章 15 節) というイエスさまの宣教の第一声は、新しい時<sup>ま</sup>が始まることを告げます。イエスさまのことばと共に、新しい時<sup>ま</sup>は始まるのです。それは、クロノスではなくカイロスです。その時<sup>ま</sup>は、「すぐに」「捨てる」ことを要求する、差し迫った時<sup>ま</sup>です。

## 説教：すぐに

『マルコによる福音書』による、イエスの宣教活動の開始の様子が今日の朗読箇所です。イエスの宣教活動の第一声はガリラヤから始まります。ガリラヤはイエスの出身地(1章9節)であり、そこを主要な舞台にイエスは宣教活動を展開します。そして、最後の一週間をエルサレムで過ごし、十字架上で死んでいきますが、復活の後に再びガリラヤへと向かいます。正当なユダヤ教指導者たちがいたエルサレムとは対照的に、ガリラヤは貧しく、神を求め民衆が住むところでした。

18節に「すぐに」とあります。19節にもあります。これは『マルコによる福音書』に特徴的に登場する言葉です。

イエスさまは「歩いておられた」、そして「御覧になった」、その後「言われた」。この三つの動詞がイエスのアクションです。収税所でアルファイの子レビを呼び出す時もそうでした(2章14節:「そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、『わたしに従いなさい』と言われた」)。

このアクションへの反応は「捨てて」、「従った」という二つの動詞が連なります(2章14節では「彼は立ち上がってイエスに従った」)。「捨てる」は、イエスさまの呼びかけへの受け入れを表しています。「従う」はその結果生じる生き方の変化のことです。

今日の朗読箇所に登場する「すぐに」は「間髪入れずに」の意味があるでしょう。ガリラヤの貧しい漁師たちは、本当に間髪入れずにイエスさまに従ったのです。さらに、「すぐに」は場面の展開のスピードを表す言い方でもあります。「歩いておられた」イエスさまが、彼らを「御覧になった」。そして「わたしに従いなさい」と「言われた」。これは日常の場面。日常の時間の流れでしょう。しかし、漁師たちは網を「捨てて」、「すぐに」イエスさまに「従った」のです。ここから、非日常の時間の流れが始まります。のんびりゆったり生きていた漁師たちは、イエスさまに出会ったおかげで、新しい時間の流れで生き始めるのです。それはおよそ三年に及ぶ濃厚な時間でした。